

第 62 回長崎大学経営協議会議事要録

1 日 時 平成 24 年 10 月 10 日（水）13 時 30 分～15 時 30 分

2 場 所 事務局第 1 会議室

3 議 事

(1) 長崎大学学長選考会議委員の選出について

議長から、経営協議会より選出された学長選考会議委員 1 名が 9 月 30 日付けで辞任されたことに伴い、長崎大学学長選考会議規則第 3 条第 1 項第 1 号により、新たに経営協議会の学外委員の中から、学長選考会議委員 1 名を選出する必要がある旨の説明があった後、学長選考会議委員の推薦が求められ、委員から推薦があった森岡委員が学長選考会議委員として選出された。

引き続き、学長選考会議委員である理事から、11 月中に学長選考会議を開きたいので、日程照会を行う旨の説明があった。

4 報告事項

(1) 平成 23 年度に係る業務の実績に関する評価結果（原案）について

理事（総務・財務担当）から、資料 5 に基づき、平成 23 年度に係る業務の実績に関する評価結果（原案）について国立大学法人評価委員会から通知があり、全体評価としては基本的な目標に沿って計画的に取り組んでいると評価されていること。また、項目別評価の 3 項目については中期計画の達成に向けて順調に進んでいると評価されているが、「その他業務運営に関する重要目標」で研究費の不適切な経理があったため中期計画の達成のためにはやや遅れていると評価されていること。その他、教養教育改革、英語教育改革、アフリカ海外教育研究拠点の拡充、熱帯医学研究所のケニアとベトナム拠点、大学病院の教育・研究、診療面等及び東日本大震災への対応が注目されていることについて、報告があった。

この報告を受けて、大要次のような意見交換があった。

（◎は学外委員，○は大学側の発言）

- 研究費の不適切な経理を勘案した評価結果（原案）に対し、金額及び件数を考慮するよう意見を提出するか検討中である。
- ◎ 研究費の不適切な経理については金額の大小は問題とならないので、意見は提出しない方が良い。
- ◎ 意見を提出して、評価結果（原案）の評価が変わる可能性はあるのか。
- 評価結果（原案）の評価が、変わる可能性は少ない。
- ◎ 評価結果（原案）の評価が変わらないのであれば、意見を提出しない方が良い。
- 評価結果（原案）の評価に対して、意見を提出しないようにする。

なお、報告の過程で、5 ページに記載の水産学部は水産・環境科学総合研究科に、工学部は工学研究科に修正する旨の説明があった。

(2) 平成 25 年度概算要求について

理事（総務・財務担当）から、資料 6-1 に基づき、平成 25 年度概算要求の運営費交付金、特別経費及び施設整備事業について、文部省から財務省へ要求する一覧が示さ

れ、各事項について報告があった。

この報告を受けて、大要次のような意見交換があった。

(◎は学外委員、○は大学側の発言)

- ◎ 中期計画期間の評価結果が、予算に関係するのか。
- 第1期の評価結果により、83,000千円程度の予算が要求されている。
- ◎ 重点要求は、中期計画のプライオリティと一貫性があるのか。
- 中期計画の基本目標に沿った、研究分野の重点要求である。
- ◎ 国立大学改革促進のインセンティブ予算は、大学の存続に大きな影響があると感じる。また、従来予算では最初の計画から途中の見直しにより人件費や研究費が削減されるが、国立大学改革促進の予算はどうか。
- 運営費交付金は削減され競争的補助金を増加し、改革を行った大学や世界と戦える大学には重点的に補助金を配分する方向にある。しかし、5年程度の補助金では労働契約法の改正により、有能な若手研究者を雇用することが難しくなる。
- ◎ 予算を減らされる今の体制のままでは大学は生き残れないので、予算を集約、集中する改革を行った大学が生き残るのではないか。
- 大学が生き残るためには、改革をやらざるを得ない。

引き続き、学長から、資料6-2に基づき、平成25年度概算要求の特別経費（プロジェクト分）で要求している、長崎大学熱帯医学校の構想について報告があった。

この報告を受けて、大要次のような意見交換があった。

(◎は学外委員、○は大学側の発言)

- ◎ 長崎大学でしか熱帯医学校の構想は考えられないので、邁進してほしい。また、東京キャンパスの開設により、優秀な学生が全国から集まり世界一になる可能性がある。
- 本学の国際健康開発研究科は東京で入試説明会を開催すると受験希望者がたくさん集まるが、実際に長崎での受験や長崎で2年間生活することを考えると優秀な学生が集まりにくい。この状況を解決する方策が、東京キャンパス開設の発想である。
- ◎ 国際諮問委員会による助言とは、どのようなものなのか。
- 熱帯医学校のコンセプト、カリキュラム及び教員選考等を諮問し、国際諮問委員会に答申を出してもらおう。また、優秀な若手研究者の推薦や、ケニアで日本人研究者を指導する教授等の推薦である。
- ◎ 優秀な教員だけではなく、日本人や外国人を問わず優秀な学生に来てもらうモチベーション、なぜ長崎大学なのかをしっかりと打ち出せば、熱帯医学校は世界トップになる可能性がある。
- ◎ 一貫して修士から博士の学位を取得できることは良いが、熱帯医学校を国内外で評価してもらうためには、有名学術誌への掲載論文数、シンポジウム開催回数及び修了生の現場での活躍状況等の評価の指標を今から考える必要がある。また、海外の熱帯医学校はディスタンス・ラーニングにより学位を取得できるので、東京キャンパスをディスタンス・ラーニングの拠点として活用すべきである。
- ベトナム拠点には大学院担当教授を1人配置しているので、eラーニングのテレビ会議システムで講義を行うことができないか検討中である。ケニアについては、衛星回線のeラーニングが高価であり実現は難しいが、大学院担当教授を配置することによりディスタンス・ラーニングが可能と考える。

(3) 環境報告書 2011 について

副学長（産学連携，環境・施設担当）から，環境配慮促進法第 9 条で公表が義務付けられている環境報告書について，資料 7 に基づき 2011 年度版の内容の報告と，併せてホームページにも掲載したことの報告があった。

5 協議事項

(1) 大学改革実行プランに対応する学士教育改革の方向性について

学長から，資料 8-1 に基づき大学改革実行プラン，資料 8-2 に基づき学士教育改革，資料 8-3 に基づき新学部構想及び資料 8-4 に基づき経済学部国際ビジネスコースについて説明があった。

この説明を受けて，大要次のような意見交換があった。

（◎は学外委員，○は大学側の発言）

- ◎ 新学部は長崎大学にしかできない，例えばアジアに特化した特色を出すべきである。
- ◎ 英語教育は協定を結んでいる長崎県と協力することにより，学生も長崎大学に関心を持つのではないか。
- ◎ 優秀な学生を確保する方策として，高大連携等を通じて行くと高校側も長崎大学に学生を送り出しやすい。
- ◎ JELLY FISH PROJECTに参加する小中学生は非常に優秀であり，これで経験したことを長崎大学で研究できるという夢を持たせることで，偏差値以外で長崎大学を選ぶのではないか。
- ◎ 教養教育を含む学士教育改革全体をリードする教員集団を創生するとあるが，新学部の中の話か又は大学全体の話なのか。
- 新学部の教員が主体となり，熱帯医学校で雇用する外国人教員や経済学部国際ビジネスコースで雇用する教員を中心に，大学全体に影響を与える集団である。
- ◎ 教員の改革理念が一致しないと，学士教育改革の成果が出ないと思われる。
- ◎ 研究に進むのではなく就職する学生には，理論より本質を見る目や問題意識を持つ考え方を教えた方が将来役に立つと思う。
- ◎ グローバル人材育成に関し，英語教育も非常に大事であるが，ある地域に特化した戦略的な人材育成も行っていたいただきたい。
- 経済学部では 3 つの地域に留学するプログラムがあり，日本語や英語以外にもう 1 か国語が身に付き学生の競争力になることを意識している。
- ◎ 新学部でオランダ特別コース以外に，長崎大学にしかできないコースをもう少し増やすべきである。
- ◎ 新学部の学生に 1 年間の海外留学を義務付けると，大きなインパクトがある。
- 学生に TOEIC を課すのであれば，教員にも TOEIC を課すことにより学生も頑張ると思われる。
- 教員が熱意を持ち同じ理念を持って教育することを，語学に携わる専任教員だけではなく非常勤教員を含め FD により徹底したい。
- 教員への英語教育については，土曜日に集中コースを開催する等を検討しキャリアサポートをしていきたい。

(以上)